

安楽寺だより

第58号

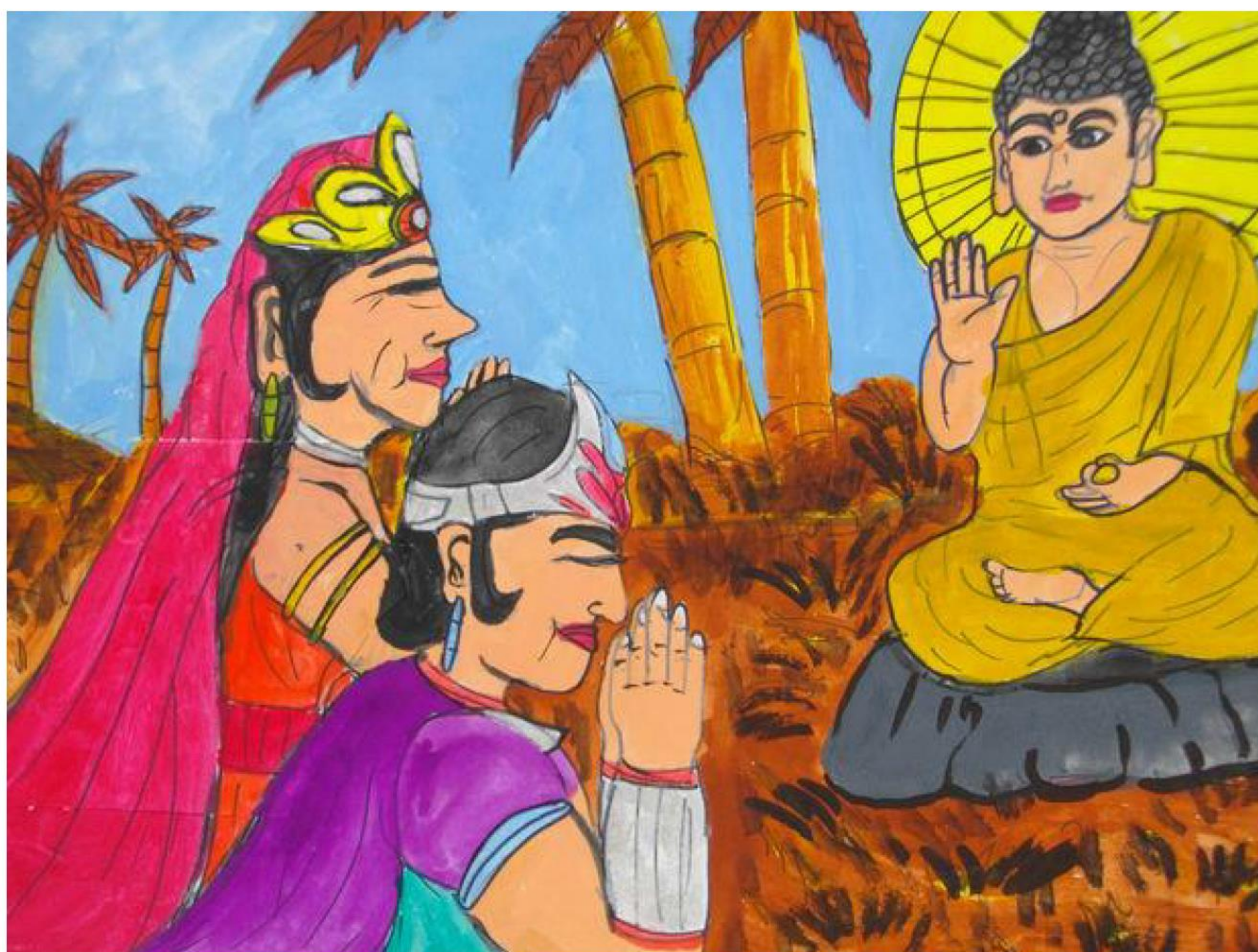
紙面内容

2面	山本昌さんを招き、総会開く
3面	別院で二十二組同朋大会開催
4面	蓮如上人⑭連載最後にあたって

編集・発行 安楽寺住職 吉田 和良
 名古屋市瑞穂区井戸田町一の八〇
 電話 〇五二(八四一)二六〇六

第17回 極楽世界を見せるお釈迦さま

王舎城の悲劇(その4)



お釈迦さまと対面したイダイケが「濁りのない浄(きよ)らかな国に生まれたい」と嘆願しました。その、お釈迦さまは、眉間(みけん)から金色の光をお放

お釈迦さまの光がビンバシヤラ王を照らす

ちになりました。その光はあらゆる方角に広がる無数の世界をすべて照らしました。

七宝(金・銀・瑠璃・玻璃(水晶)・碑磔(白珊瑚)・赤珠(赤真珠)・瑪瑙(めのう)の七種)でできた国土、蓮華で飾られた国土、自在天の宮殿のような国土など無数の諸仏の国が現われていました。お釈迦さまはイダイケに諸仏の国々をお見せになりました。

それを拝見したイダイケは申しました。「お釈迦さま、これらの諸仏の国々は、みな汚れなく浄(きよ)らかなで、ひかり輝いておりますが、わたくしはいま阿弥陀仏のおられる極楽世界に生まれたいと願うところが起こってきました。どうかわたくしに極楽世界をこころ静かに思い浮かべる方法を教えてください。そして、阿弥陀仏の真実をありのままに受け取るすべを教えてください」

それを聞いたお釈迦さまは、こころ

よく微笑みをもらされ、そのみ口から五色(青・黄・赤・白・黒)の光が輝き、そのひとつひとつが牢獄に居るビンバシヤラ王の頭の頂きを照らしました。ビンバシヤラ王は、その光によって何ものにも妨げられることのないこころの眼(まなこ)が開け、とおくお釈迦さまのお姿を拝見することができました。ビンバシヤラ王は、ひざまずき頭を垂れて礼拝しました。すると自然にこころが深まり、決してかえることのない阿耶含(あなごん)という境地に入ることができました。

これまで沈黙を守っておられたお釈迦さまは、この時初めてイダイケにお告げになりました。

『あなたは、気づいているでしょうか。あなたのためだけ求めた阿弥陀仏は、ここから遠く離れた所にいらつしやるわけではありません・・・』

(次号に続く)

山本昌さんともちつき大会

ふっ
か
かい

佛佳会総会開く

二月十一日は快晴の朝でした。午前十時より、安楽寺会館法要室で佛佳会総会を開催いたしました。総代の市川様のご挨拶のあと、市川様から事業報告がありました。「昨年十一月報恩講の折、会員の新規加入のお願いをし



ましたら、多くのご門徒様のお申し込みがありました。有難うございました。今日現在で150名の皆様にご加入をいただいております。去年は、親睦旅行が出来ませんでした。今年は、四月二十三日に行います。ぜひご参加ください」
そして、総代の吉田様から会計報告があり、全員の拍手でご承認いただきました。

「吉田様から「会員の輪が増々広がるようご協力よろしくお願ひします」とご挨拶があり、和やかな中で終了しました。

その後、会館西の特設会場で元中日ドラゴンズ投手・山本昌さんをお招きし、開館二十五周年記念として、もちつき大会を開催しました。二〇〇名を超える皆様にお集りいただき、山本昌さんと写真を写したり、サインをお願いして楽しんでみえました。

井戸田消防団のみなさま、有志の女性の方々に手伝いをいただき、参加された皆様につきたてのおもちを食べていただきました。

大会終了後、会館二階で佛佳会親睦会開き、山本昌さんからご挨拶と乾杯のご発声をお願いし、皆様と会食していただきました。途中、昌さんに各テーブルを回って頂き、記念写真を写しました。ビンゴゲームで大いに盛り上

安楽寺佛佳会は、年会費12,000円でいつでも、どなたでもご入会をお受けしております。安楽寺護持のため、どうかお一人でも多くご入会いただけたら幸いです。詳しくは安楽寺にお問い合わせ下さい。



お集まりの皆様に食べていただきました、あずき・きな粉・だいこんおろしをまぶしたおもちです



22組 同朋大会開催

三月十五日、二十二組同朋大会が、東別院対面所に於いて開催されました。各寺院のご門徒さまにお集まりいただきました。小島大真組長（大乘寺住職）の挨拶の後、中根清さん（NPO法人紫香楽代表理事）に「後悔しない老後」ー人生を楽しく過ごすための終活ーと題してご講演をしていただきました。

「日本の現状は、六十五歳以上の人口が3,640万人で超高齢化社会を迎えています。薬の消費量は世界一位で、2025年問題（団塊世代の人が75歳になる）で医療費の上昇・医療従事者の不足・病院の不足など逼迫の課題です。介護が必要になった時のため、介護保険の仕組みを知り準備することが大切



講演される中根 清さん



です。」「後悔しない老後のため、ひとりです。」「後悔しない老後のため、ひとりでの準備や個人資産・生命保険等のチェック・相対策と共に、やりたいことリストを作ることが大事です」など具体的な取り組みについてお話しいたきました。

その後、二十二組有志コーラスグループ「百歌繚

乱」の皆様が、素晴らしい歌声を披露して下さいました。最後に坊さん漫才「えしんりよう」のお二人による、息の合った掛けあいのおはなしに大きな拍手と歓声が堂内に響き渡りました。

春彼岸お墓まいり

三月十四日、八事霊園安楽寺墓地において、春のお彼岸墓法要をお勤めしました。朝から春の陽気になり、大勢の皆様がご家族そろって参拝にお出かけいただきました。

午前十時三〇分からの永代供養墓法要には、地下鉄等の公共機関やタクシー・自家用車等で八〇名余の皆様にお集まり頂きました。墓前で読経いたす中、彼岸にご往生された皆様を偲んで、お焼香していただきました。

この墓参りの様子は、安楽寺会館にお参りいただいた三〇名ほどの皆様に動画配信し、スクリーンに映した前で、おひとりお一人にお焼香をしていただきました。ご参拝いただき誠にありがとうございました。



仏教豆知識

第五十八回



日本仏教史

補足 蓮如上人⑭

連載の最後にあたって



連載の最後に、御文の中で蓮如上人の往生・信心の受けとめの要をお聞きして、終わりいたします。

『開山（親鸞聖人）は、この宗をば浄土真宗とこそさだめたり。自余の浄土宗は、もろもろの雑行をゆるす。わが聖人は雑行をえらびたまう。このゆえに真実報土の往生をとぐるなり』

『当流のおもむきは、信心決定しぬればかならず真実報土の往生をとぐべきなり』

『その信心というは、・・・弥陀如来を一心にたのみたてまつりて、一向にふたごころなく弥陀を信ずるばかりなり：』

（御文一帖目第十五通）

私たちは、「お念仏を称えて浄土往生をとげたい」と願い、自分に念仏を取り込んで、念仏を手段にしようと力んで苦しんでいるのです。そんな私たちに対して、蓮如上人は、私の思いを突き破ってくる『智慧としての念仏ですよ』と申されているのです。仏のはたらき・如来の呼び声としての念仏に出会ってほしい、あなたが支えられている『報恩の念仏ですよ』と申されています。

御文を拝読して『報土の往生・弥陀を信ずる』ことを、学び続ける日々を過ごしていければと思います。

ことしは、昭和元年（1926年）から一〇〇年目になります。前年の大正十四年（1925年）にラジオ放送が始まって100年、NHKは連日のように100年番組を放送しています▼大正時代から昭和時代になり、このころから日本が戦争時代に突入する世情になっていきました。この年3月19日治安維持法が貴族院で可決・成立し、言論・出版・集会の自由が抑圧され、政治・経済・文化・宗教などあらゆる状況が戦時体制に組み込まれていきました▼先日のお彼岸中に東別院において平和展―真宗大谷派の海外侵出「満州開教」―が開かれました。大谷派宗門は、この時代日本政府の海外侵略に協力して朝鮮・台湾そして中国東北部（旧満州）に開教の名目で戦争に加担しました。その事実をあらわしたパネル展示を見学してきました▼いま日本政府は中国・北朝鮮の脅威に対処するためとして、沖縄・南西諸島にミサイルを配備・防衛費の増進を進めています。100年前の日本の出来事が、現在の私たちに種々の教訓を教えてくれています。